

平成24年度事業評価シート

事業名		21520		市民海外派遣事業費	担当課	海外戦略室			内線
		枝番							2416
予算	会計	1	一般会計		総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	2	総務費			分野	5	地域	
	項	1	総務管理費			基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる	
	目	15	海外戦略推進費			施策	4	ふれあいの推進	
根拠計画			海外戦略ビジョン						
実施計画事業			市民海外派遣事業						
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学生以上の市民	対象者数	75 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・市民の国際理解の啓発を図り、幅広い知識をもった国際社会に対応できる人材を育成する。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・飛騨高山国際協会が実施する英語スピーチコンテストと市教育委員会が実施する公募試験により派遣市民を選抜し、派遣先の言語や文化について学習会を実施した後、1週間の期間で海外へ派遣する。派遣先のアメリカとオーストラリアではホームステイを通じて異文化や外国の生活習慣を学びながら交流を行う。中国では歴史文化遺産の見学や友好都市麗江市の交流を通して両市の友好を深める。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・平成23年8月11日～8月17日 カナダコース(シアトル・ビクトリア) 22名 ・平成23年8月11日～8月17日 オーストラリアコース(ブリスベン・ゴールドコースト) 23名 ・平成23年8月16日～8月22日 中国コース(西安・麗江・上海) 18名					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	派遣事業参加者数		人	目標値	75	75	75
					実績値	75	63	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	84	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	・事前研修及び事後報告会の充実を図るなど派遣事業の強化に取り組んでいる。							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			14,324	14,395	16,000	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			14,324	14,395	16,000			
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)		190,987	228,492	213,333		
		受益者	中学生以上の市民 (B)	75	63	75		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・派遣の前段として実施される英語スピーチコンテストや公募選考においても参加者がほぼ一定の人数で推移しておりある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・事業の主催は市及び教育委員会であるが、事業代行を飛騨高山国際協会が行っており、現在の体制が妥当であると考える。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・一定人数の参加が得られ概ね成果が上がっている。 ・派遣先や内容の検討も十分に行っている。 ・高校生、一般の参加者が少ないため、啓発を強化する必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費、日当などであり、適正な予算執行となっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・事業自体は有効であるが、事後の波及効果についてさらに研究していく必要がある。
---	--

(参考) H23事業評価結果 (二次評価)	・平成22年度事業評価において、コスト縮減に努めるとともに、将来の高山を担う人材の育成に向け、事業の効果測定を行い実効性を高めていく必要があるとの指摘をしており、こうした取組みを引き続き行う必要がある。
---	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・事後発表会の実施について、参加者や形態の検討をすすめる。
---------------------	-------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・高校生、一般についてスピーチコンテストとも併せ、広く参加を呼び掛ける。 ・学校教育課とも連携を強化し、学習会のさらなる充実を図る。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・将来の高山市を担う人材の育成という視点からの効果測定を行い、より効果的な取り組みを検討していく必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名		21523		自治体職員協力交流事業費	担当課		海外戦略室			内線
		枝番								2416
予算	会計	1	一般会計			総合計画	政策			
	款	2	総務費				分野			
	項	1	総務管理費				基本施策			
	目	15	海外戦略推進費				施策			
根拠計画			海外戦略ビジョン							
実施計画事業										
市長公約										

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・友好都市である中国雲南省麗江市より研修生を受け入れ、高山市の行政について研修を行うことにより、両市の友好交流の推進と高山市の国際化を図る。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・中国雲南省麗江市研修生の受入れ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・中国雲南省麗江市より研修生1名を受入れ ・海外戦略室及び畜産課において研修					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	派遣事業参加者数		人	目標値	2	2	2
					実績値	2	1	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	50	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	・研修内容の充実及び市民とのふれあいの機会の創出を図っている。							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			5,113	2,771	6,343	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			5,113	2,771	6,343			
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			54	30	68	
		受益者	市民(4月1日現在) (B)		93,822	93,312	92,861	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・自治体が入入れを行う事業であり市の実施が妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	概ね計画どおりの研修者を確保し目標を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費、日当などであり、適正な予算執行となっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）	・研修内容の充実を図るとともに、市民との交流の機会を創出していく。
--	--

(参考) H23事業評価結果 (二次評価)	・研修生の活動が見えるよう関係課との連携を図りつつ情報発信を行う必要がある。 ・研修生を市が費用負担して受けていることから、市民等に対する具体的な効果について明確化する必要がある。
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・研修内容の多様化
-----------------------------	------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・研修生2名を受入れるとともに研修内容のさらなる充実を図る。 ・研修生の人数の拡大について検討する。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・研修生の活動が見えるよう情報発信を行う必要がある。 ・人数拡大の検討については、研修生を市が費用負担して受け入れていることから、市民等に対する具体的な効果について明確にする必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名		21524		姉妹友好都市交流促進事業費	担当課	海外戦略室			内線
		枝番							2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
	款	2	総務費		分野	5	地域		
	項	1	総務管理費		基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる		
	目	15	海外戦略推進費		施策	4	ふれあいの推進		
根拠計画			海外戦略ビジョン						
実施計画事業			国内外姉妹友好都市等交流事業						
市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・海外の姉妹友好都市であるアメリカ合衆国コロラド州デンバー市及び中華人民共和国雲南省麗江市との友好交流を促進する。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・姉妹都市・友好都市への派遣及び受入れ、交流		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・アメリカコロラド州デンバー市とのあらたな交流の在り方についての協議 ・アメリカコロラド州デンバー市公式訪問団の受け入れ ・中国雲南省麗江市との友好都市提携10周年記念事業打合せ					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	姉妹友好都市訪問団への派遣及び受入人数		人	目標値			
					実績値	50	10	-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
	成果指標	姉妹友好都市関係者との交流人数		人	目標値			
					実績値	120	20	-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			8,345	625	5,950	
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		8,345	625	5,950		
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)		89	7	64		
		受益者	市民(4月1日現在) (B)	93,822	93,312	92,861		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・現在、市が主体となりながら高山・デンバー友好協会や高山・雲南・麗江友好協会などとも連携し交流事業をすすめている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・様々な交流事業を実施しているが、幅広く対象を広げ交流人口を増加させることが課題である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費は渡航費用等であり、適正な予算執行となっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）	・一定の関係者のみでなく幅広く市民を対象とした交流事業を展開していく必要がある。
--	---

(参考) H23事業評価結果 (二次評価)	・昆明市を含む新たな友好交流都市提携においては、市民意識の醸成に配慮しながら推進する必要がある。また、どのような都市と提携するのかについての“基準”のようなものを定める必要がある。 ・一部の市民のみの交流とならないよう市民全体への還元方法について検討する必要がある。
--------------------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・ルーマニアシビウ市及び中国雲南省昆明市と友好都市提携を予定している。
---------------------	-------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・これまで主体となっていた人的交流に加え、あらたに観光や地場産業の発展などにつながる交流について協議していく。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・交流先の都市数が増えることから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。 ・一部の市民のみの一過性の交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。 ・新たな観光・産業につながる交流を具体化させる必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名		21525		国際交流事務費	担当課	海外戦略室			内線
		枝番							2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
	款	2	総務費		分野	5	地域		
	項	1	総務管理費		基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる		
	目	15	海外戦略推進費		施策	4	ふれあいの推進		
根拠計画			海外戦略ビジョン						
実施計画事業			国際交流事務費						
市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・国際交流の促進及び民間交流団体の活動支援を行う。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・国際交流活動の支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・市民外国語講座の実施(6ヶ国語、受講者411名) ・英語スピーチコンテストの実施(参加者59名) ・韓国月間の開催 ・シビウ国際演劇祭ボランティアスタッフ派遣(派遣者4名)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	市民外国語講座受講者数	人	目標値	500	500	500
				実績値	543	411	-
		算出根拠等		達成率(%)	109	82	-
	成果指標	シビウ国際演劇祭ボランティア派遣者数	人	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	市民の国際交流事業などへの年間参加人数	人	目標値			5,000
				実績値	800	1,000	-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項							

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)			2,877	1,802	5,596	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			2,877	1,802	5,596
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			31	19	60
		受益者	市民(4月1日現在) (B)		93,822	93,312	92,861

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、海外都市との交流への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・現在、市と飛騨高山国際協会などが連携し事業をすすめている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・様々な事業を実施しているが内容の充実や幅広く対象を広げ交流人口を増加させることが課題である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費は、外国語講座の実施及びボランティアスタッフ派遣に要する費用等であり、適正な予算執行となっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・事業内容の充実を図るとともに、一定の関係者のみでなく幅広く市民を対象とした事業を展開していく必要がある。			

(参考) H23事業評価結果 (二次評価)	・平成22年度事業評価において、飛騨高山国際協会の事務負担を行政が担っており、協会会員との役割分担について見直す必要があるとの指摘をしており、こうした対応を引き続き行う必要がある。
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・既存事業の継続しつつ内容の充実を図っている。
-----------------------------	--------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・関係都市とのさらなる交流の促進 ・飛騨高山国際協会実施事業の充実									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・飛騨高山国際協会の事務負担について見直す必要がある。また、新たに創設される日中友好協会においても同様の対応をとる必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名		21526		海外戦略推進事務費	担当課	海外戦略室		内線
		枝番						2416
予算	会計	1	一般会計		総合計画	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	2	総務費			6	工業	
	項	1	総務管理費			1	時代の流れに対応した活力ある工業の振興を図る	
	目	15	海外戦略推進費			1	経営体質の強化	
根拠計画		海外戦略ビジョン						
実施計画事業		海外戦略推進事業						
市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・高山市の国際化の推進に向け海外における積極的な活動を図る。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・誘客、物販等における海外戦略の推進		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・国内外関係機関への職員の戦略派遣 ・外国人観光客の誘客PR ・飛騨高山東京事務所運営委託 ・地場産品海外販路開拓事業(輸出セミナーの開催等)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	トップセールス	回	目標値			
				実績値		8	-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	成果指標	外国人観光客入込数	人	目標値	300,000	300,000	300,000
				実績値	187,000	95,000	-
		算出根拠等		達成率(%)	62	32	-
	成果指標	事業者の新規海外販売契約件数	件	目標値			7
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項							
平成24年2月に「高山市海外戦略ビジョン」を策定し、海外を対象とした誘客・物販・交流を一体的にすすめている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額		H23 決算額	H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)		0		34,218	44,920	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源				34,218	44,920
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		0		367	484
		受益者	市民(4月1日現在) (B)	93,822		93,312	92,861

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域活力の向上のため、国際観光、地場産品の海外販売、多様な国・地域・都市との交流のさらなる推進が必要となっている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が主体となりつつ、関係機関と密接に連携し多様な施策展開を図る必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・海外誘客等については一定の成果が上がっているが、地場産品の海外販売においては官民一体となった取り組みがまだ十分には進んでいない状況にある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・委託事業については派遣職員の活用などにより見直しを行ってきた。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、誘客・物販・交流の一体的な推進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）	・事業内容の充実を図り、誘客・物販・交流等の関連付けを意識し、相乗効果を生み出すための取り組みを強化していく必要がある。
---	---

(参考) H23事業評価結果 (二次評価)	・海外戦略ビジョンを早期に策定し、観光・物販・交流において相乗効果が図られるような取組みを体系的・戦略的に実施する必要がある。
---	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・誘客や物販の促進につなげるため市内関係事業所等へのヒアリングを実施している。 ・来訪者が滞在しやすく買い物がしやすい受入れ環境の整備について、協議をすすめている。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・最新の情報通信技術を駆使したPRの強化 ・外国人観光客の動向の早期分析と次年度への活用 ・広域的な観光ルートの整備、PRの強化 ・各種誘客・販売PR活動の効果の検証 ・外国人と地域住民とのふれあいの機会の拡大 ・外国人が滞在しやすく買い物がしやすい環境の整備									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・海外戦略ビジョンに掲げる目標達成に向けた戦略を着実に実施できるよう、関係機関等との連携を強化していく必要がある。 ・観光・物販・交流において相乗効果が図られるようニーズにあった手法を検討していく必要がある。									

